第１回熊谷市荒川公園周辺再整備基本計画策定協議会

日時：令和８年６月１６日（火）午後２時３０分～
場所：熊谷市男女共同参画推進センター「ハートピア」

次　第

１　開　会

２　挨　拶

３　委員紹介

４　会長について

５　議　事
⑴　副会長の指名
⑵　検討状況の報告及び基本計画素案
⑶　今後の進め方
⑷　その他

６　その他

７　閉　会

荒川公園周辺再整備基本計画（案）

検討状況の報告及び基本計画素案について

2026.06.16

目次

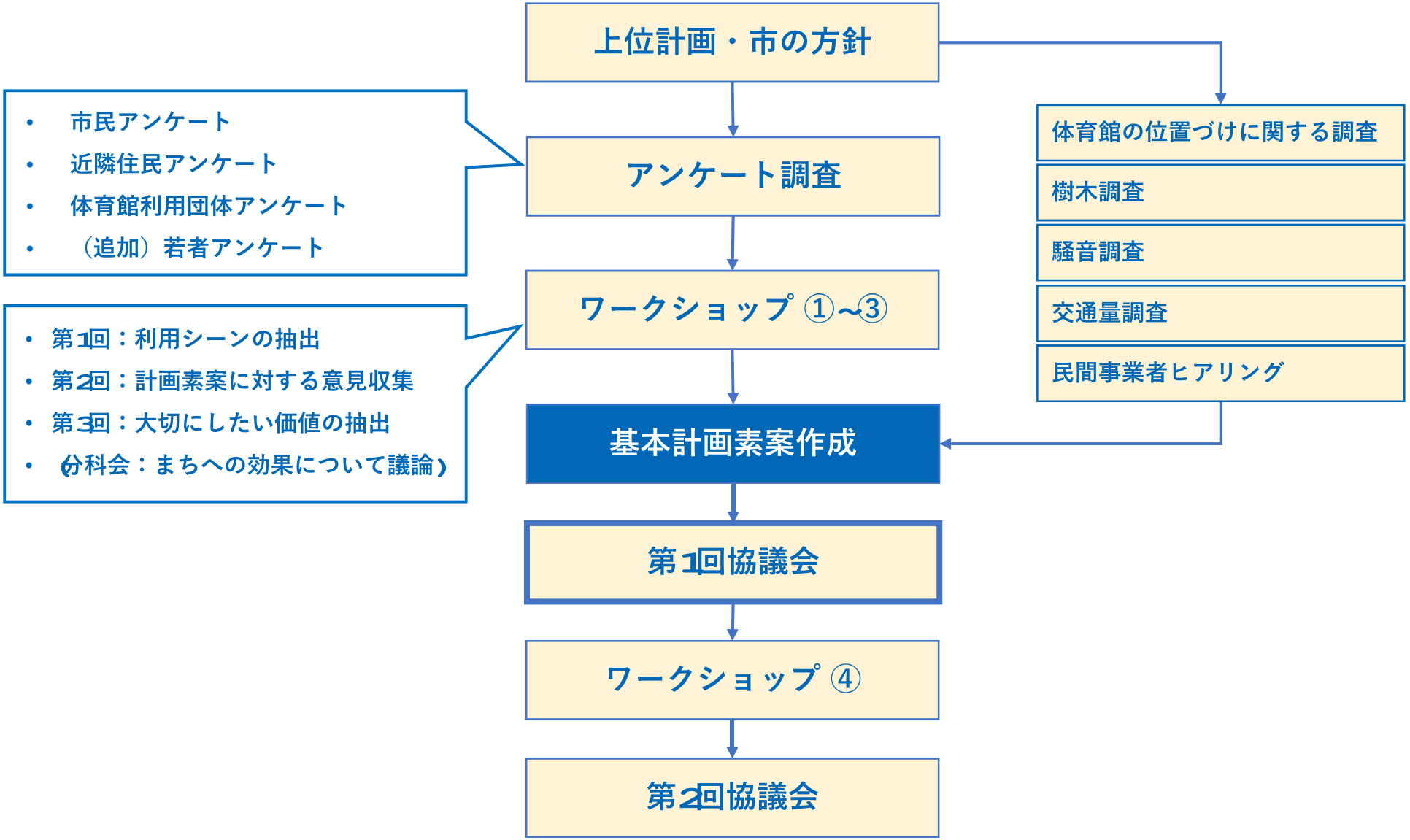
１．検討状況報告

（１）　計画検討の進め方 ・・・

1 .検討状況報告

（1）計画検討の進め方

▸ 上位計画や本市の方針を踏まえ、アンケートやワークショップを通じて市民の意見を取り入れながら計画づくりを進めています。



（２）上位計画・市の方針

▸ 本市の上位計画や周辺のまちづくりの取組も踏まえて検討を進めています。

上位計画での位置づけ

- **第2次熊谷市総合振興計画　後期基本計画（令和５年３月）**
  - ・リーディングプロジェクト：「伝統文化とスポーツにより人々が交流するまちづくり」
  - ・政策：「スポーツ・観光を通じて魅力を発信するまち」
- **熊谷市都市計画マスタープラン（令和４年３月）**
  - ・荒川公園周辺を「都市拠点」「新スポーツ・文化・健康拠点」として位置付けている
- **熊谷市立地適正化計画（令和４年３月）**
  - ・都市機能誘導区域（都市拠点）の熊谷駅周辺において、スポーツ・文化活動などの市民のレクリエーション環境の充実、交流人口の拡大を目指し、災害時の避難所等、地域防災力の向上に資する機能を備えたアリーナを整備
  - ・荒川公園において、アリーナ整備との連携やPark-PFIの活用検討などにより、スポーツに親しむことができる魅力的な空間整備を目指す

周辺まちづくりの取組

・**熊谷駅南口エリア**では、市民の声を反映させた**まちづくりビジョン策定に向けた取組**が進められています。

・**熊谷荒川緑地**では『**熊谷市荒川かわまちづくり**』が**令和７年８月に支援制度に登録**され、河川空間とまち空間が融合した良好な空間形成を目指しています。





出典：熊谷市荒川かわまちづくり計画書
https://www.city.kumagaya.lg.jp/about/soshiki/kensetsu/kasen/kawamati/kawamachi_touroku.files/kumagaya_kawamachidukurikeikakusyo.pdf

（2）上位計画・市の方針

▸ 本市の基本的な考え方は下記の通りです。

市民体育館の課題認識

- 市民体育館は、昭和40年に建築され、令和7年度に耐用年数の60年が経過し、**施設の老朽化**が進んでいます。
- 熊谷市は、「実践」「応援」「協力」を合い言葉にスポーツによるまちづくりを目指し、「スポーツ熱中都市」を宣言していますが、**市民体育館は「実践」として市民に多く利用されているものの、「応援」としての「みるスポーツ」について、観客席数が約1,000席と少なく、選手の荷物を置く場所も確保できないこと、大会運営に必要な諸室等が少なく、開催可能な大会等が限定されること、新耐震基準を満たしておらず耐震性能や、空調設備がないことも課題**となっています。

荒川公園周辺の再整備

- 熊谷市では、熊谷駅からのアクセス性や利便性、荒川河川敷に近接という季節ごとの魅力を備えた**荒川公園周辺エリアの魅力を生かし、老朽化した市民体育館を建て替えるとともに、開園から49年が経過した荒川公園の再整備を行うことで、「荒川公園周辺エリアのにぎわい創出」を図ることを検討**します。

防災機能の充実を目指して

- 防災機能を充実させ、**災害時には近隣住民はもとより、帰宅困難者も受け入れられる防災施設としても活用**できるよう検討します。

（３）体育館の位置づけ調査　１）調査概要

▸ 新体育館の整備の方向性を検討するため、市内の屋内スポーツ施設全体からみた体育館の位置づけについて調査・分析しました。

【市内施設の現状と将来ニーズ】
- 市内屋内スポーツ施設の分布と利用状況
- 大会・教室・プロスポーツ等の開催状況
- スポーツに関する社会動向
- 市民ニーズ　等

【社会動向やまちづくりの方向性】
- 地域の状況（まちづくり・スポーツ）
- 市や地域における社会課題
- 近隣自治体等との比較　等

【市内屋内スポーツ施設のあり方の整理】
- 市内における「市民体育館」の位置づけ
- 地域体育館やスポーツができる公共屋内施設との役割分担

⇒再整備する**市民体育館の役割・機能、施設規模や仕様等の再定義**

検討対象
【市内屋内公共スポーツ施設】
①市民体育館
②武道館
③籠原体育館
④大里体育館
⑤江南体育館
⑥星宮体育館
⑦妻沼運動公園
⑧熊谷さくら運動公園
⑨健康スポーツセンター
⑩スポーツ・文化村「くまぴあ」
参考：熊谷スポーツ文化公園（県営）

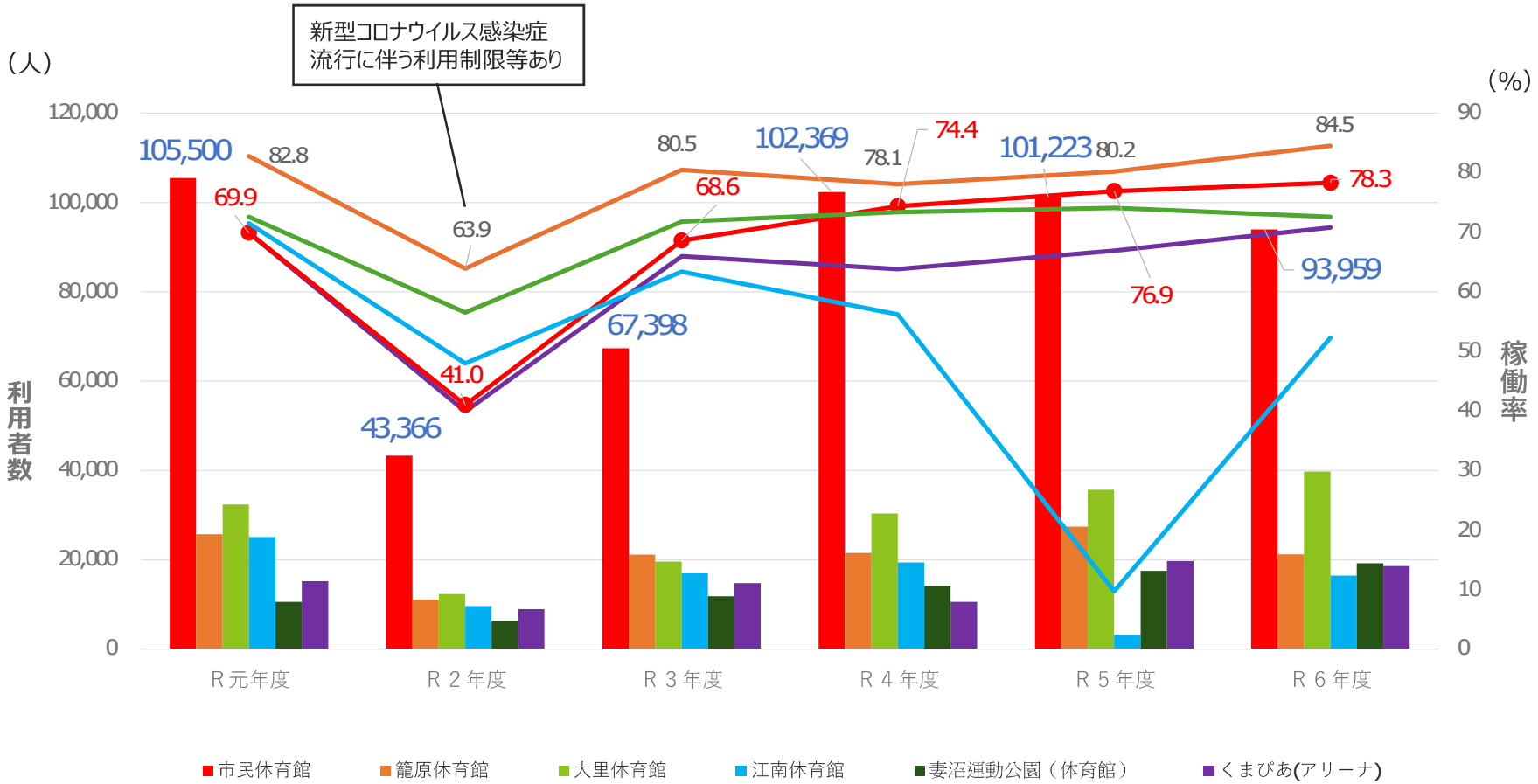
＋

【スポーツができる公共屋内施設】

図：検討の流れ

（３）体育館の位置づけ調査　２）市内施設の利用状況

- 市内屋内公共スポーツ施設（体育館）の利用状況は以下の通りです。
  - 市内の体育館で**市民体育館の利用人数が最も多く**、年間10万人前後（コロナ禍除く）の利用者で推移
  - 稼働率は籠原体育館（アリーナのみ）が最も高く、**市民体育館のアリーナは**これに**次いで高い稼働率**を示す



※市民体育館の稼働率はアリーナのみを抽出。
※妻沼運動公園（体育館）の稼働率は未集計。

図：各施設の利用者数と稼働率

（3）体育館の位置づけ調査　3）市内施設の整備状況

- 市内及び周辺自治体の屋内スポーツ施設（体育館）の整備状況は以下の通りです。
  - 市民体育館は**規模的（アリーナ面積、観客席数）にも市内の体育館における中心的な役割**を担っている
  - **市内にサブアリーナがある施設は無い**
  - 県内、周辺自治体と比較し、**市民体育館は鉄道駅からのアクセス性が突出して良い**



図：市内及び周辺自治体の屋内スポーツ施設の整備状況

表：市内主要体育館の仕様

施設名	地域	アリーナ面積（㎡）	観客席数	駐車場
市民体育館	中央	1,526.00	983	70台
籠原体育館	西部	1,168.00	―	60台
大里体育館	南部	1,311.00	270	194台
江南体育館	南部	987.25	250	19台
星宮体育館	東部	807.3	―	
妻沼運動公園体育館	北部	2,005.00	360	732台※
くまぴあアリーナ	中央	1,168.50	―	262台※
参考）県営 熊谷スポーツ文化公園体育館	東部	3,268.00	2,503	約2,800台※

※施設全体の駐車場台数

- 市民体育館の立地している荒川公園周辺は、「熊谷市都市計画マスタープラン（令和４年３月）」において、“新スポーツ・文化・健康拠点”として位置づけられており、以下の役割が求められています。

①都市拠点に近接する強みを生かし、市民のスポーツ・文化活動の支援や交流人口の拡大を図る拠点

②「**する・みる・ささえるスポーツ**」を通じ、地域の誇りを感じる空間

- 市民体育館の再整備にあたっては、**“みるスポーツ”の機能を強化しつつ、市民の“するスポーツ”利用との両立を図る**ことで、**“する・みる・ささえる”**で関われる、**市民のスポーツ振興の拠点**となる施設を目指していくことが望ましいと考えられます。
- 市民体育館の現状の利用状況について、利用者数は多い一方で稼働率はそこまで高くないため、これまで活動できなかった競技の使用を含め、**ハード・ソフト両面での再整備**を行い、より**効率的・効果的な利用ができる施設**としていくことが重要です。

全ての世代の市民が利用しやすく、併せて全国規模の大会等が開催できる体育館を検討

（４）アンケート調査　１）調査概要

▸ 市民意向の聴取にあたり、下記の通りアンケートを実施しました。

アンケート調査（令和７年７月）

▸ 令和７年７月に３種類のアンケートを実施しました。

概要	市民アンケート	近隣住民アンケート	体育館利用団体アンケート
目的	• 市民の幅広い意見の把握 • スポーツ実施状況の把握	• 周辺にお住まいの立場の意見の把握	• 市民体育館利用団体の意見の把握 • 市内スポーツ施設利用状況の把握
対象	熊谷市民	半径約１ｋｍ圏内の世帯	市民体育館利用団体
方法	市報・ＨＰ等に掲載	調査票配布	調査票配布
回答数	721件	214件	9件

追加アンケート調査（令和８年２～3月）

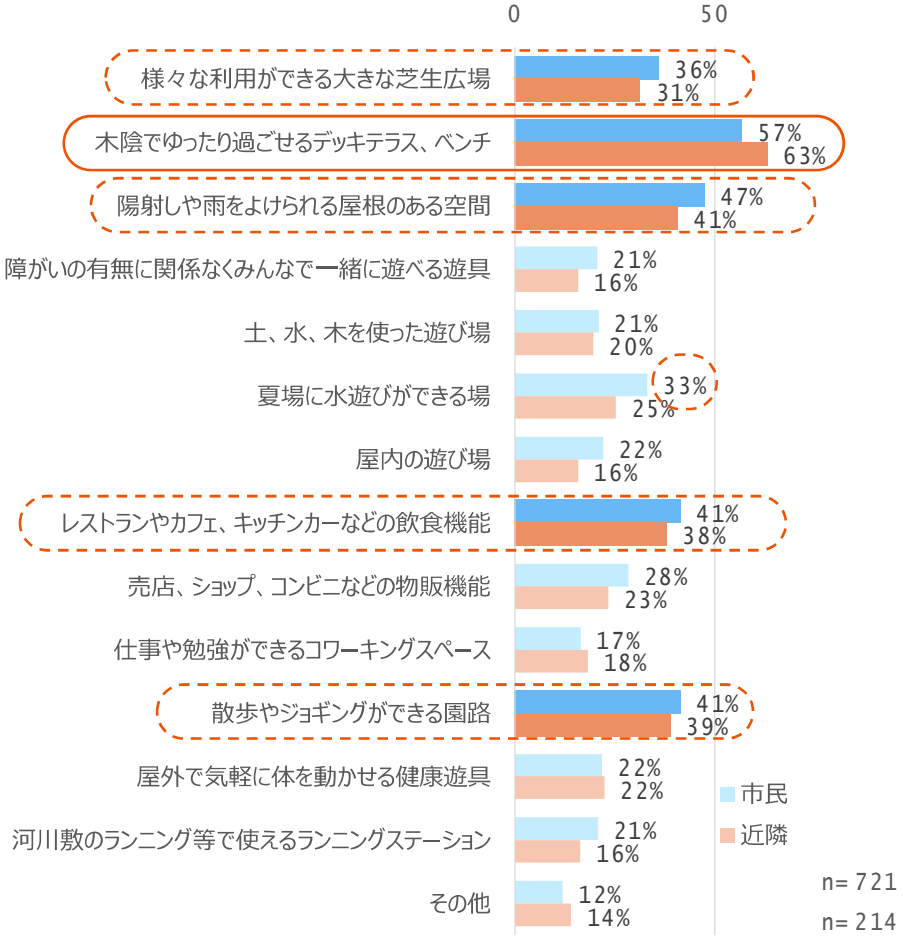
▸ 若い世代の意見収集が必要という声を受け、追加で意見収集の機会を３回設けました。

概要	オープンワークショップ①	オープンワークショップ②	中学生アンケート
場所	熊谷スポーツ文化公園 ※ラグビーリーグワン埼玉ワイルドナイツ戦	熊谷駅商業施設（ニットーモール）	市内５つの中学校 ※熊谷さくらマラソン大会中学生ボランティア説明会
形式	パネルアンケート	パネルアンケート	用紙アンケート
回答数	シールの枚数は947 ※1人につきシール枚数1～3枚貼ったため正確な人数は不明	26件	57件

（４）アンケート調査　２）市民・近隣住民ニーズ

▸ 市民・近隣住民アンケート調査の結果、公園および体育館の利用ニーズについて、以下のような意見が挙げられました。

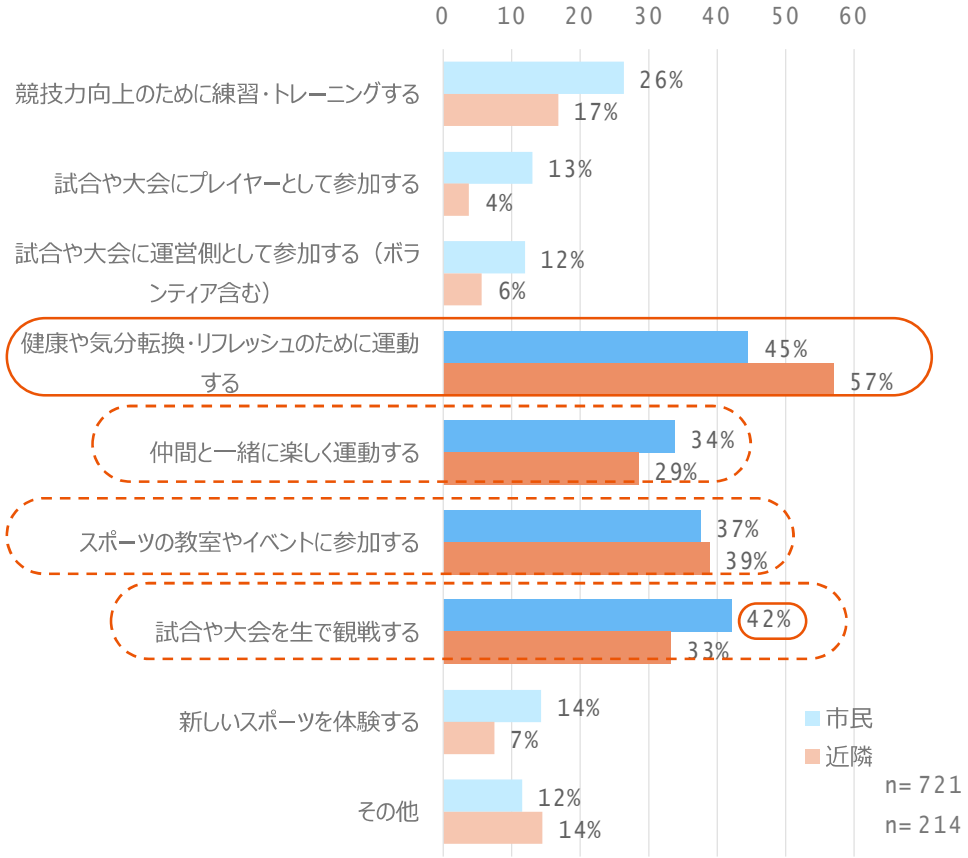
新しい荒川公園や体育館で利用してみたいと思う機能や施設



- **木陰のデッキテラス、ベンチ**が“市民”“近隣”ともに最多
- 次に、**屋根のある空間、飲食機能**や**散歩やジョギングができる園路、大きな芝生広場**が続く
- 遊び場では、**夏場の水遊び場**が“市民”でやや多い

新しい体育館でしてみたいこと

※複数回答可



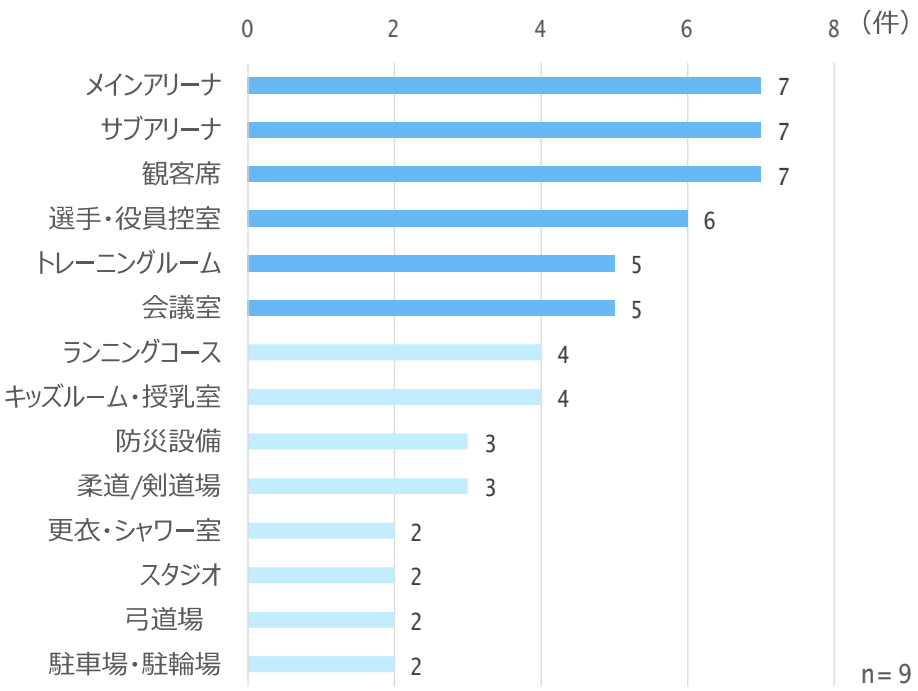
- “市民”は、**健康や気分転換・リフレッシュのための運動**が最多、**試合・大会観戦**も同程度多い
- “近隣”は、**健康や気分転換・リフレッシュのための運動**が“市民”より多い傾向
- ほか、“市民”“近隣”ともに**スポーツの教室やイベント参加、仲間と一緒に運動**が比較的多い

（４）アンケート調査　３）体育館利用団体ニーズ

▸ 体育館利用団体アンケート調査の結果、体育館の利用ニーズについて、以下のような意見が挙げられました。

新しい体育館で利用してみたいと思う機能や施設

※複数回答可



- **メインアリーナ、サブアリーナ、観客席が最多**
- 選手・役員控室、トレーニングルーム、会議室と続く

新しい体育館の規模に対する要望

	規模の要望	利用想定
アリーナ	バスケットボールコート3面	ミニバスケット、中学生大会、高校生大会、一般成人大会、車椅子バスケ　等々
	バスケ3面メインアリーナ＋１面サブアリーナ	各競技の大会、各競技団体の通常の練習、市民のスポーツ、リクリエーションの振興、災害時の避難場所等※
	バレーボールコート4面	熊谷市バレーボール連盟の行事（試合）
		中学、高校の関東、全国大会など開催できる規模
	バレーボールコート6面	県大会
	バドミントンコート12面以上	全国大会、S/Jリーグ開催、バドミントン講習会、協会主催の大会
	空手のコートが5面または7面	空手道の大会、現在の体育館では5面がいいが規模によっては7面
	卓球台50台規模、3500人収容	市スポーツ協会及び中高校生の卓球大会、Tリーグ試合観戦等
他	15M ×30M 規模の剣道場と柔道場、五人が射ることのできる弓道場、トレーニングコース等を含む観客席	同上（※）
	メインコートを囲む様に、トレーニング室、卓球室、武道場、スタジオ等あれば良い	メイン会場は、中学の市大会、その他は、多様なスポーツ（ダンス、ヨガ、ピラティス、実践的健康教室等）

- アリーナ規模は、**バスケットコート3面以上**を要望する声が多い

（４）アンケート調査　４）若者・子どもニーズ

- ９つの利用シーンのうち、将来の荒川公園・体育館においてどのように過ごしたいかについて、アンケート調査を実施しました。
- オープンワークショップでの10代以下の若者の回答および中学生アンケートの回答結果について、以下の傾向が見られました。

オープンワークショップ①、②の結果

■：最も多い　■：2番目に多い

共通	①誰もが気軽に体を動かす	②居心地の良い空間でくつろぐ	③みんなで災害に備える
体育館	④スポーツ教室に日常的に参加する	⑤スポーツ大会に出場する・サポートする	⑥スポーツ・イベントをみて楽しむ
公園	⑦豊かなみどりに囲まれ自然を感じる	⑧子どもがのびのびと遊ぶ	⑨季節感を楽しむ

- オープンワークショップ①②の市内外の回答者の合計値において、「**⑧子どもがのびのびと遊ぶ**」が最も多く、次に、「**①誰もが気軽に体を動かす**」が多い
- オープンワークショップ①では、すべての人が気軽に集い、楽しめる場所への期待感が寄せられた
- オープンワークショップ②では、20万人都市にふさわしい立派な公園と、駅近の利点を活かした拠点づくりへの期待が寄せられた

中学生アンケートの結果

■：最も多い　■：2番目に多い

共通	①誰もが気軽に体を動かす	②居心地の良い空間でくつろぐ	③みんなで災害に備える
体育館	④スポーツ教室に日常的に参加する	⑤スポーツ大会に出場する・サポートする	⑥スポーツ・イベントをみて楽しむ
公園	⑦豊かなみどりに囲まれ自然を感じる	⑧子どもがのびのびと遊ぶ	⑨季節感を楽しむ

【5校の回答総計】

- 「**居心地の良い空間でくつろぐ**」が最も多く、オープンワークショップ①②と違いが見られる
- 荒川公園での過ごし方における「**子どもがのびのびと遊ぶ**」が次に多い

（５）ワークショップ　１）開催概要

▸ ワークショップは、令和８年７月までに４回実施予定で、下記のとおり3回実施しました。

第1回 再整備のあり方の共有

11/8 実施済

１）現地確認

２）検討状況説明

・WS開催の目的
・検討プロセス
・施設の現況
・調査結果報告

３）グループワーク

現地を見て、良いところ・気になるところ・こうなったらいいなと思うことを出し合う

第２回 空間イメージの共有

1/31 実施済

１）検討状況説明

・第１回振り返り
・コンセプト案
・モデル比較検討案の提示

２）グループワーク

モデル比較検討案について感想・意見を出し合う

第３回 空間イメージの共有

3/28 実施済

１）検討状況説明

・前回までの振り返り
・前回の質問回答
・事例紹介・追加意見収集報告

２）グループワーク

①第２回の意見をもとにまとめた価値に関する意見交換

②価値を踏まえてモデル比較検討案について意見交換

第４回 基本計画素案の共有

7/4 実施予定

１）検討状況説明

・モデルプラン、イメージ図など基本計画素案の説明

２）グループワーク

①１）を踏まえて確認したいこと、感想を出し合う

②新体育館・新荒川公園の「こうやって使いたい」を出し合い、空間イメージを共有

③今後の進め方や、再整備後のこのエリアへの関わり方について意見交換

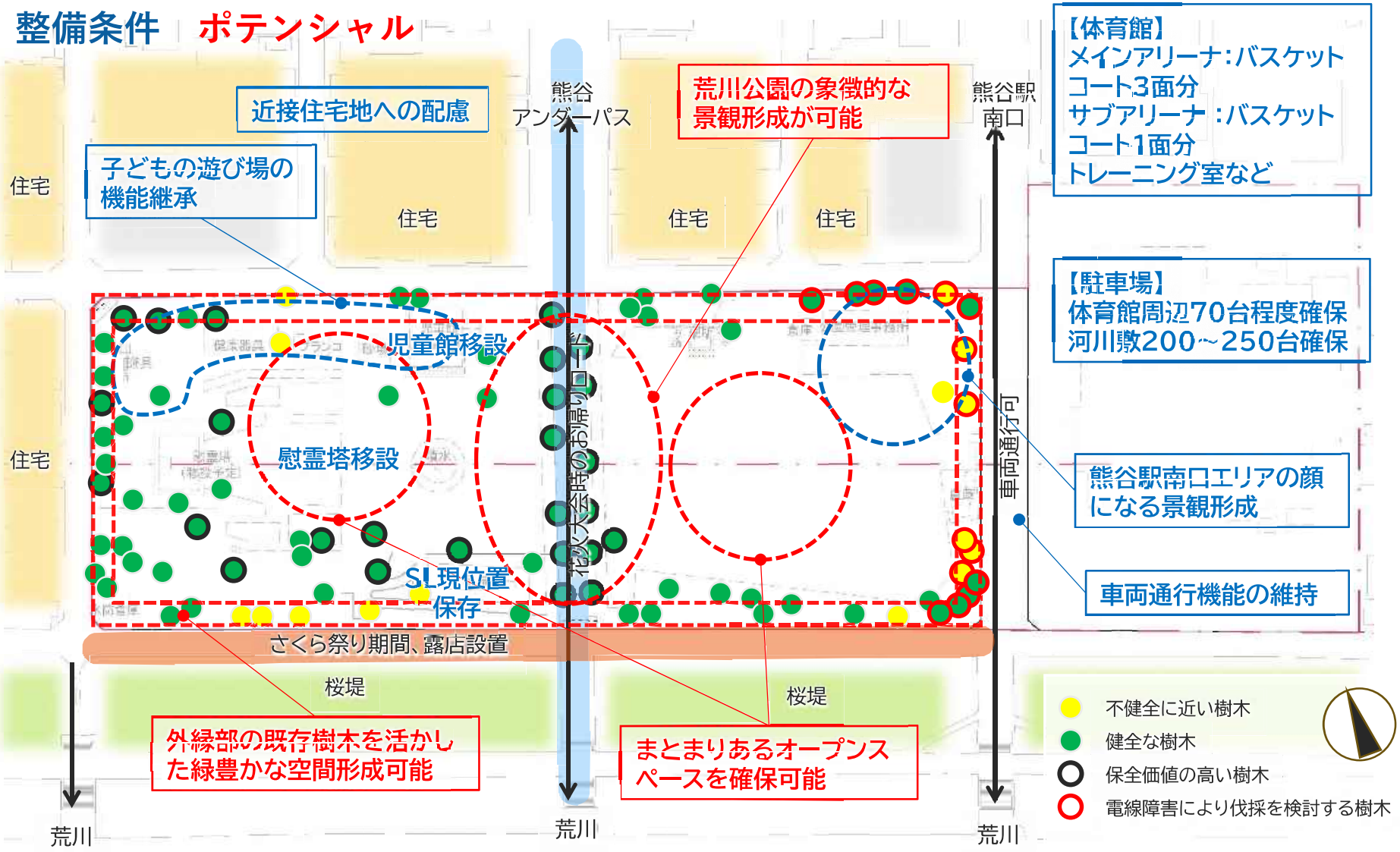
（５）ワークショップ　２）第１回ワークショップ

▸ 第1回ワークショップでは、実際に現地確認をした後、今の公園・市民体育館や、対象エリア全体について意見交換を行いました。

	good! 良いところ	Hmm.. 気になるところ	Hope こうなるといいなと思うところ
荒川公園	● 美しい樹木や自然を感じられる ● 風の道があり、見事な大木のおかげで涼しい ● 花火、桜、夕日など四季折々の景色が良く癒される ● こどもから高齢者まで楽しめる	● 遊具や施設が古くあまり使われていない ● 木々の元気がないところ ● 管理が大変そうな木が多い ● 慰霊塔は大切だが配置場所や暗い雰囲気など危険を感じる	● 今の良いところを生かし、丁寧な管理で豊富なみどりを維持してほしい ● 雨宿りや木陰で涼めるような場所があると良い ● 芝生などで寝転んだりくつろげるようになると良い ● 暑さ対策も兼ねて水に触れられる設備があると良い
市民体育館	● 駅から近く学生や市外の人など、どのような人にとってもアクセスが良い ● こどもの健全な育成につながる場になっている ● 地域の人が使える体育館であるところ ● 市内の体育館の中では観客席が多い	● 器具、設備、施設全般が古くて使いづらい ● 駐車場が狭く車で来た際に不便 ● 収益性や稼働率が低い ● 利用料金が高い	● 空調完備で安全にスポーツができるようになると良い ● ホールやカフェなど子連れでゆっくり待てる場所など多目的に使えると良い ● 若者の意見を反映した計画になり、こどもが利用しやすく笑顔がいっぱいある場になってほしい ● スポーツだけでなく日常的に安く利用できるようにして利用率を上げられると良い
エリア全体	● 駅から近く平坦、直線の道でアクセスできる ● 静かで落ち着いた文化的な住環境 ● 公共施設が集積しており、様々な目的で人が来るエリア ● 公園と土手のみどりがまとまっているところが良い	● 駅から公園までの一体的な賑わいや施設間の連携が作られていない ● 道路が狭く混雑したり、今以上の広がりがとりづらい ● 車移動が多い割に駐車場が少ない ● 公園、体育館ともに防災機能が必要ではないか	● 駅から公園までを一体的に整備して熊谷の目玉となるような楽しいエリアになると良い ● イベント時にもゆったりと歩ける道ができ、周辺道路の混雑も解消されると良い ● 相互連携が可能な施設を計画してほしい

（5）ワークショップ　3）第２回ワークショップ

- 第2回ワークショップでは、第1回ワークショップ意見を踏まえたモデルプラン案等の説明、意見交換を実施しました。
- はじめに計画地におけるポテンシャル、整備条件について以下の通り説明を行いました。



（５）ワークショップ　３）第２回ワークショップ

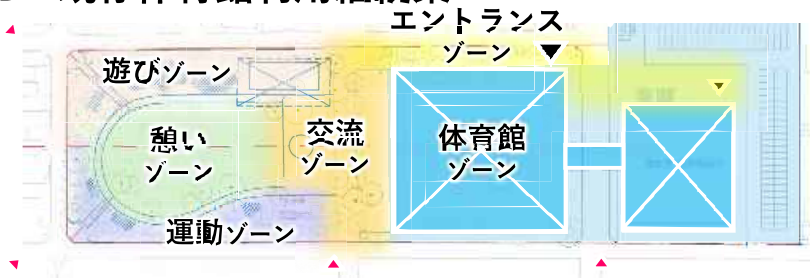
▸ ポテンシャル、整備条件を踏まえた施設配置4案を提示しました。

A：体育館観客席充実案



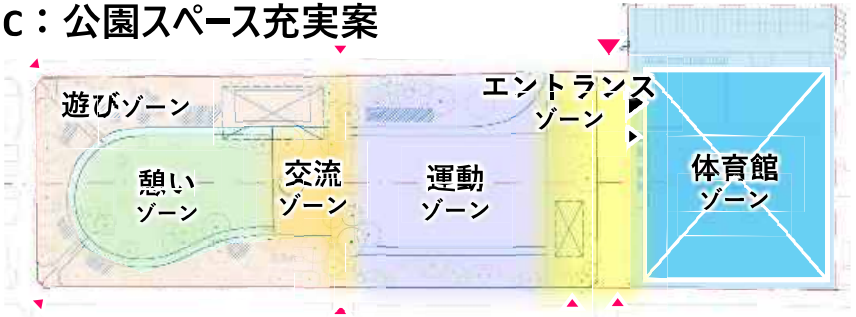
アリーナ	メインアリーナ：バスケコート３面、２階 サブアリーナ：バスケコート１面
観客席数	固定 約２,１００席　仮設 約１,８００席
駐車場	建物下（ピロティタイプ）
体育館建設費	約１４０億円

B：既存体育館利用継続案



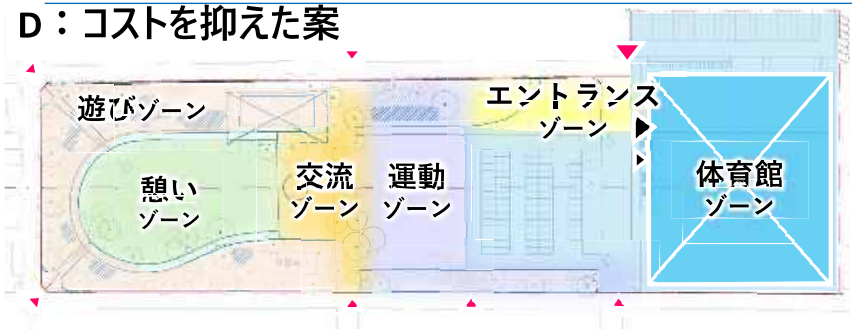
アリーナ	メインアリーナ：バスケコート３面、１階 サブアリーナ：バスケコート１面
観客席数	固定 約２,１００席　仮設 約１,８００席
駐車場	青空駐車場（現体育館側の敷地）
体育館建設費	約１００億円

C：公園スペース充実案



アリーナ	メインアリーナ：バスケコート３面、２階 サブアリーナ：バスケコート１面
観客席数	固定 約１,３００席　仮設 約１,８００席
駐車場	建物下（ピロティタイプ）
体育館建設費	約１２０億円

D：コストを抑えた案



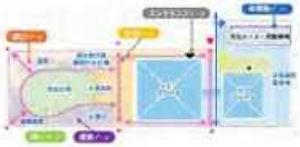
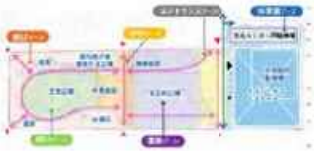
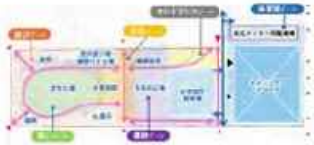
アリーナ	メインアリーナ：バスケコート３面、１階 サブアリーナ：バスケコート１面
観客席数	固定 約１,３００席　仮設 約１,８００席
駐車場	青空駐車場（現公園側の敷地）
体育館建設費	約９０億円

＜４案共通方針＞

- 熊谷駅南口からアクセスしやすく、体育館入口に近い区域を「エントランスゾーン」とする
- 市役所通りから連続するシンボル性の高い空間である、中央の並木空間を、賑わいの中心となる「交流ゾーン」とする
- 現在の遊び場がある場所を中心に、その機能を継承しつつ、北・西側のエリアを「遊びゾーン」とする
- 体育館との利用の連携を踏まえ、体育館に隣接するエリアを「運動ゾーン」とする（B案を除く）
- 既存樹木に囲まれたオープンスペースが確保できる位置には芝生広場を中心とした「憩いゾーン」とする

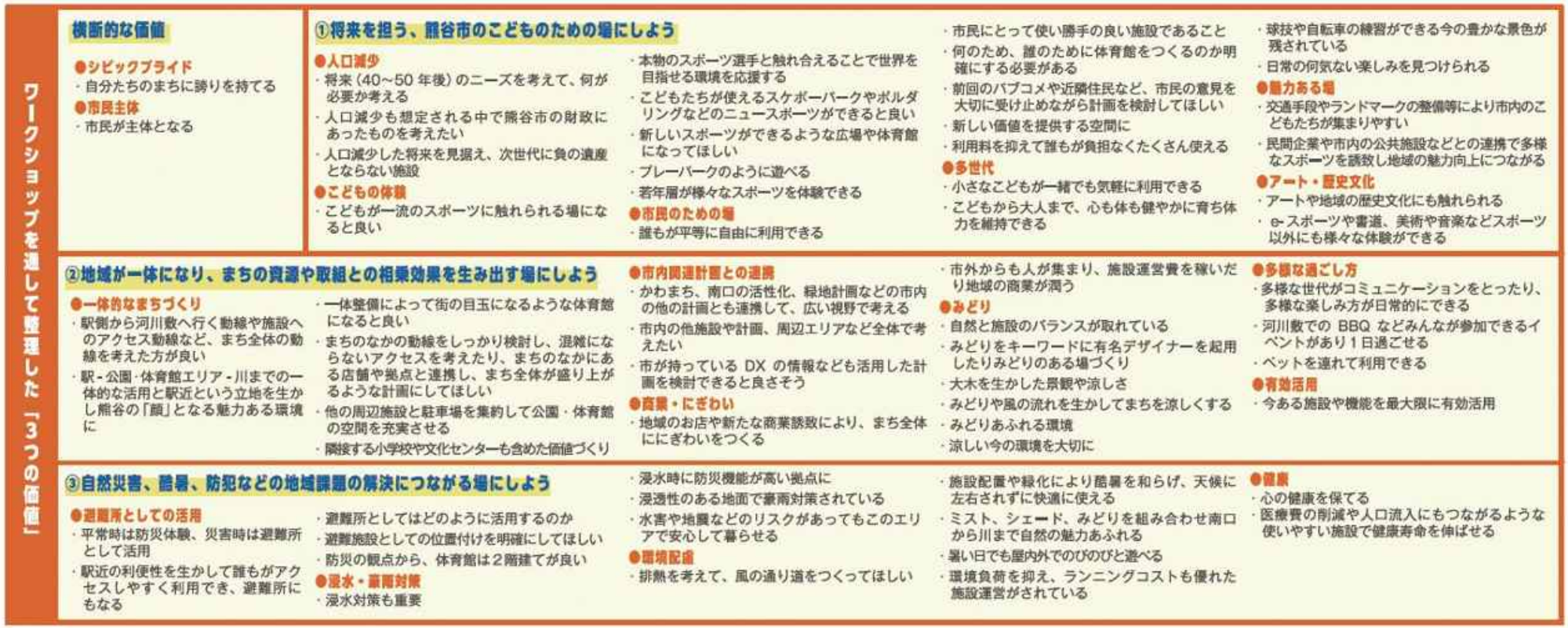
（5）ワークショップ　3）第２回ワークショップ

▸ 配置案についてグループに分かれて議論を行いました。案への「良い点」と「気になる点」の要点は以下の通りです。

配置案	「いいね」と思われた点	「気になる」と思われた点
A｜体育館観客席充実 案 	・豊富な観客席数によりプロスポーツやコンサートなど大規模イベントに対応できる点に最も多くの期待が寄せられた ・機能面では、分棟配置により大会と市民利用を両立しやすい点や、メインアリーナを2階に置くことによる浸水対策への評価も高かった ・河川敷との連携や既存の並木・広場の維持など、周辺環境との調和を望む声も挙がった	・公園側への建物配置による圧迫感や風通しの悪化など、周辺環境への悪影響を心配する声が最も多かった ・メインアリーナが2階で分棟となる構造による大会運営や施設間移動の不便さ、災害拠点としての使いにくさも指摘された ・約140億円という建設費や維持管理コストの高さ、既存樹木の伐採に伴う公園オープンスペースの減少、工事期間中の利用停止に対する不安の声も多く寄せられた
B｜既存体育館利用継続案 	・「工事期間中も既存体育館を継続して利用できる点」が最も支持された。代替施設がない中で、日常の利用や大会を途切れさせずに整備できることが高く評価された ・約100億円という規模に対してコストが低い点や、メインアリーナが1階にあり運営しやすい点、大規模イベントに対応できる観客席数、入口付近の滞留空間の確保、公園との連携のしやすさといった面も好評だった	・公園のオープンスペースが最も縮小し、既存樹木の伐採が多い点にたくさんの不安が寄せられた ・公園側に大きな建物が配置されることで生じる圧迫感や、花火が見えなくなることを心配する声もあった ・機能面では、分棟配置による維持管理コストの増加や施設間移動の不便さのほか、メインアリーナが1階であることによる浸水時の防災面への懸念、サブアリーナの必要性を問う声などもあった
C｜公園スペース充実 案 	・公園のオープンスペースを最も広く確保し、既存樹木を多く保全できる点に最も多くの支持が集まった ・市民の「緑を守りたい」という意向や市の方針と合致している点が高評価だった ・メインアリーナが2階にあることによる浸水対策（防災面）や、施設集約による維持管理コストの抑制、分かりやすい動線や開放的な景観のほか、広場でのマルシェやカフェなどの活用にも期待が寄せられた	・メインアリーナが2階にある構造への不安が多数挙げられた。具体的には、大会運営や災害物資拠点としての使いにくさ、下階に駐車場を設けることによる建設コストの増加、建物の高さによる日照悪化や圧迫感などだった ・工事期間中に既存体育館が利用できなくなることへの強い不安や、大会利用と市民利用の両立の難しさ、1,300席という観客席の少なさ、駐車場不足なども指摘された
D｜コストを抑えた 案 	・「建設費と将来の維持管理費（ランニングコスト）を最も安く抑えられる点」に圧倒的な支持が集まった。将来の市民負担を考慮した際、コストの低さが明確なメリットとして評価された ・敷地がコンパクトにまとまりメインアリーナが1階にあることによる運営のしやすさや動線の分かりやすさ、既存樹木を多く保全できるなど、コストと景観・機能のバランスの良さも高く評価された	・公園入口付近への駐車場配置による景観の悪化や、オープンスペースの減少を懸念する多くの声があった ・歩行者と車の動線の交錯や排ガス問題への心配の声も上がった ・長期間の工事中に既存体育館が利用できなくなることへの強い不安、観客席の少なさ、アリーナや諸室が手狭にならないかといった機能面での心配、大会と市民利用の両立の難しさなども指摘された

（5）ワークショップ　4）第 3 回ワークショップ

▸ 第 3 回ワークショップでは、これまでの意見交換結果から導いた「3つの価値」を柱に、荒川公園、市民体育館一体のエリアがどんな場を想像できるか、大切にしたいポイントについて意見交換しました。



（５）ワークショップ　４）ワークショップから得られた再整備に向けた論点

▸ ワークショップでてきた意見を踏まえて、再整備における論点を以下の通り整理しました。

市民の皆様のご意見
効率的・効果的な整備としたい

熊谷駅南エリアの新たな「顔」をつくる
- かわまちづくりや駅南口まちづくりも見据えて、必要な機能を持った整備を行う

屋外/屋内一体整備の良さを発揮する
- 夏や雨天でも遊べる公園にしたい
- 体育館だけでなく屋外でもスポーツができるようにしたい（今のグラウンド利用の継承）

「する・ささえるスポーツ」の利用環境を高める
- 再整備中も現体育館の利用は継続したい
- 新体育館の駐車場は今より使いやすくしたい

「みるスポーツ」で南口に新たな価値を提供する
- プロスポーツや大会で新たなにぎわいが生まれる

まちの防災性向上に役立てる
- 浸水時の避難、帰宅困難者の受け入れなど防災の機能を高めたい

▸ 市民体育館に多様な機能を持たせると規模拡大＝コスト増
▸ 浸水対策でアリーナを2階にするとコスト増

▸ 分棟型体育館や駐車場増加で公園のオープンスペースが減少
▸ 現市民体育館を残したまま再整備を行うには現荒川公園の広場が使えなくなる

市民の皆様のご意見
コスト（将来の負担）を減らしたい

再整備は必要か？
- 少子高齢化・人口減少が進む中、体育館の利用は増えるのか（再整備ではなく改修でいいのではないか）

新体育館の適正な規模は？
- 観客席数やアリーナ面積など「みるスポーツ」に過大な規模を設定していないか

将来にわたってかかるコストは？
- 公園と体育館の整備コストと維持管理コストを縮減する工夫が必要である

－再整備の論点－

✓ **エリア価値を高める**
✓ **費用対効果を高める**
✓ **環境影響を抑える**

▸ 良好な公園環境の維持には植栽管理、施設維持、清掃などのメンテナンスや、安全確保・長寿命化のための定期的な補修費といった「コスト」が必要

市民の皆様のご意見
良好な住環境を守りたい

現公園の緑や広場の良さが失われないか？
- オープンスペース（グラウンドや広場） を守ってほしい
- 既存樹木を守ってほしい
- 子どもの身近な遊び場を残してほしい

再整備により環境が悪化しないか？
- 大規模建築物で日照阻害、圧迫感、川からの風の道の障害などの環境悪化が心配
- プロの試合や大会時に騒音や交通渋滞が起きるのではないか

2 基本計画素案

（１）再整備の目標とコンセプト

▸ ワークショップ、アンケート等より、新しい体育館・公園の目指すべき方向性として「再整備の目標」の案を整理しました。

再整備の目標（案）

- 熊谷駅南エリアの新たな「顔」となり、多様な活動や交流を育む
- 市民とともに豊かな緑を継承し、日常の暮らしを豊かにする
- "する・みる・ささえる"で関われる、市民のスポーツ振興の拠点となる
- 誰もが安心して利用でき、災害時に地域の安全を支える

コンセプト（案）

案１：まちとかわをつなぎ　みんなが楽しめる　熊谷の新たな顔

案２：緑と水にかこまれた　熊谷が誇る　新たなスポーツ・文化・健康拠点

案３：市民とともに熊谷駅南エリアの新しい価値をうみだす場

（２）市民意見から整理した利用シーン

▸ 本年度実施したアンケートとワークショップでいただいたご意見を基に、将来の体育館・公園の利用シーン（使い方）を下記のとおり整理しました。

共通	①誰もが気軽に体を動かす	②居心地の良い空間でくつろぐ	③みんなで災害に備える
体育館	④スポーツ教室に日常的に参加する	⑤スポーツ大会に出場する・サポートする	⑥スポーツ・イベントをみて楽しむ
公園	⑦豊かなみどりに囲まれ自然を感じる	⑧子どもがのびのびと遊ぶ	⑨季節感を楽しむ

（３）利用シーンで実現する施設・ゾーニングの考え方

▸ 将来の体育館・公園での「利用シーン」を実現するための施設イメージ、ゾーニングを整理しました。

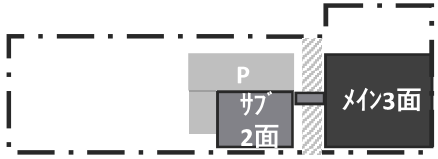
利用シーン	施設イメージ	ゾーニング
①豊かなみどりに囲まれ自然を感じる	芝生広場、木陰、ベンチ・デッキ	**憩いゾーン**：既存の緑を活かしながら多目的に使える芝生広場を配置
②誰もが気軽に体を動かす	健康遊具、多目的広場	**運動ゾーン**：屋外での気軽な運動ができる遊具やオープンスペースを配置
②誰もが気軽に体を動かす ③スポーツ教室に日常的に参加する ④スポーツ大会に出場する・サポートする ⑤スポーツ・イベントをみて楽しむ	メインアリーナ、サブアリーナ、トレーニング室、管理室、 駐車場・駐輪場	**体育館ゾーン**：体育館が立地し、主に体育館利用者用向けの駐車場を配置
⑥居心地の良い空間でくつろぐ	共用空間、トイレ、授乳室	
⑥居心地の良い空間でくつろぐ	エントランス広場	**エントランスゾーン**：公園正面入口となり、体育館利用者の滞留空間としても活用
⑥居心地の良い空間でくつろぐ	屋根付広場	**遊びゾーン**：幼児から児童まで年齢に合わせた遊具や、水遊び場、屋内遊び場など多様な遊びニーズに対応し、遊び場の近くには見守り・休憩に使える屋根付広場を設置
⑦子どもがのびのびと遊ぶ	遊具、屋内遊び場	
⑦子どもがのびのびと遊ぶ	親水施設	**交流ゾーン**：季節の祭に加え日常イベントなど市民の交流を育む空間を継承
⑧季節感を楽しむ		
⑧季節感を楽しむ	キッチンカー等出店可能な広場、 SL展示	
⑨みんなで災害に備える	防災倉庫、広場等	－（全体）

（4）市民意見等踏まえた市の考え整理

▸ 市民意見等を踏まえて、改めて計画検討における前提条件を以下の通り整理しました。

条件確認事項		市の考え	アンケート・WSの意見	事例調査	事業者ヒアリング
防災の考え方		• 観客席部分を活用できることから、アリーナは１階とする。			アリーナを2階とするのが防災上望ましい反面、物資拠点にはしずらい
観客席数		• 一定規模の大会の誘致を考慮し、固定席1,700席～2,000席とする。 • 2,000席がより望ましい。		観客席数は3,000席程度が妥当	観客席数3,000~4,000、固定席1,500~2,000が現実的。固定席を多くすると日常運営が増えるため仮設席でピーク対応が合理的
アリーナ規模	メインアリーナ	• バスケットボールコート3面以上とする。 • 一定規模の大会利用や競技利用の柔軟性を考慮し、2,400~2,700㎡とする。		約2,200～2,600㎡程度が妥当	
	サブアリーナ	• メインアリーナとは別に、日常利用や大会時のウォーミングアップ等に対応する機能としてサブアリーナを2面確保する。 • 小規模大会で利用しやすい。	大会時においても日常利用を求める声あり		
整備期間中における体育館機能の継続利用		• 整備期間中においても、市民利用や大会利用の継続ができるよう、段階整備とする。 →メインとサブは分棟配置とする 現状の利用状況を踏まえると、整備期間中に2面あることが望ましい。	整備期間中、継続利用を求める声多数 現在と同程度の規模を求める声あり		
アリーナ以外の必要諸室		• 現時点では、飲食機能や屋内遊び場等については必須機能とは位置付けず、まずはスポーツ利用を中心とした施設構成を優先する。	飲食、屋内遊び場、ランニングステーション、コワーキングスペースなどのニーズあり		屋内遊び、キッズルーム、トレーニングジム、飲食、ランニングステーションなどが考えられる
構造方式		• コスト面、利用性を考慮しピロティ形式は採用しない方向で検討する。	アリーナを2階にすると、大会運営や移動の不便さが懸念		アリーナを2階にすると、高コストとなる可能性あり、また、利用性の低下の懸念あり
駐車場		• 現状と同じ敷地内に70台確保する。 • 河川敷に200~250台確保する。	駐車場拡充を求める声あり	70台程度が妥当	

（５）施設規模・配置案

		①案	②案
イメージ			
バスケ面数	メイン アリーナ	３面	３面
	サブ アリーナ	２面	２面
アリーナ面積	メイン アリーナ	約2,400㎡	約2,400㎡
	サブ アリーナ	約1,300㎡	約1,300㎡
観客席数	固定席	約1,700席	約1,700席
	仮設席	約1,700席	約1,700席
	合計席数	約3,400席	約3,400席
駐車場		70台（現体育館側に配置）	70台（現公園側に配置）
概算整備費		アリーナ：約113億円、公園：11億円 ※屋上緑化は芝を想定、中高木を想定するとアリーナの整備費は約125億円となる。	アリーナ：約108億円、公園：11億円 ※屋上緑化は芝を想定、中高木を想定するとアリーナの整備費は約115億円となる。
維持管理費（15年2か月）		約26億円	約26億円

※維持管理費は過年度との比較できるよう同じ期間で算出。また、屋上緑化分は増額となる。

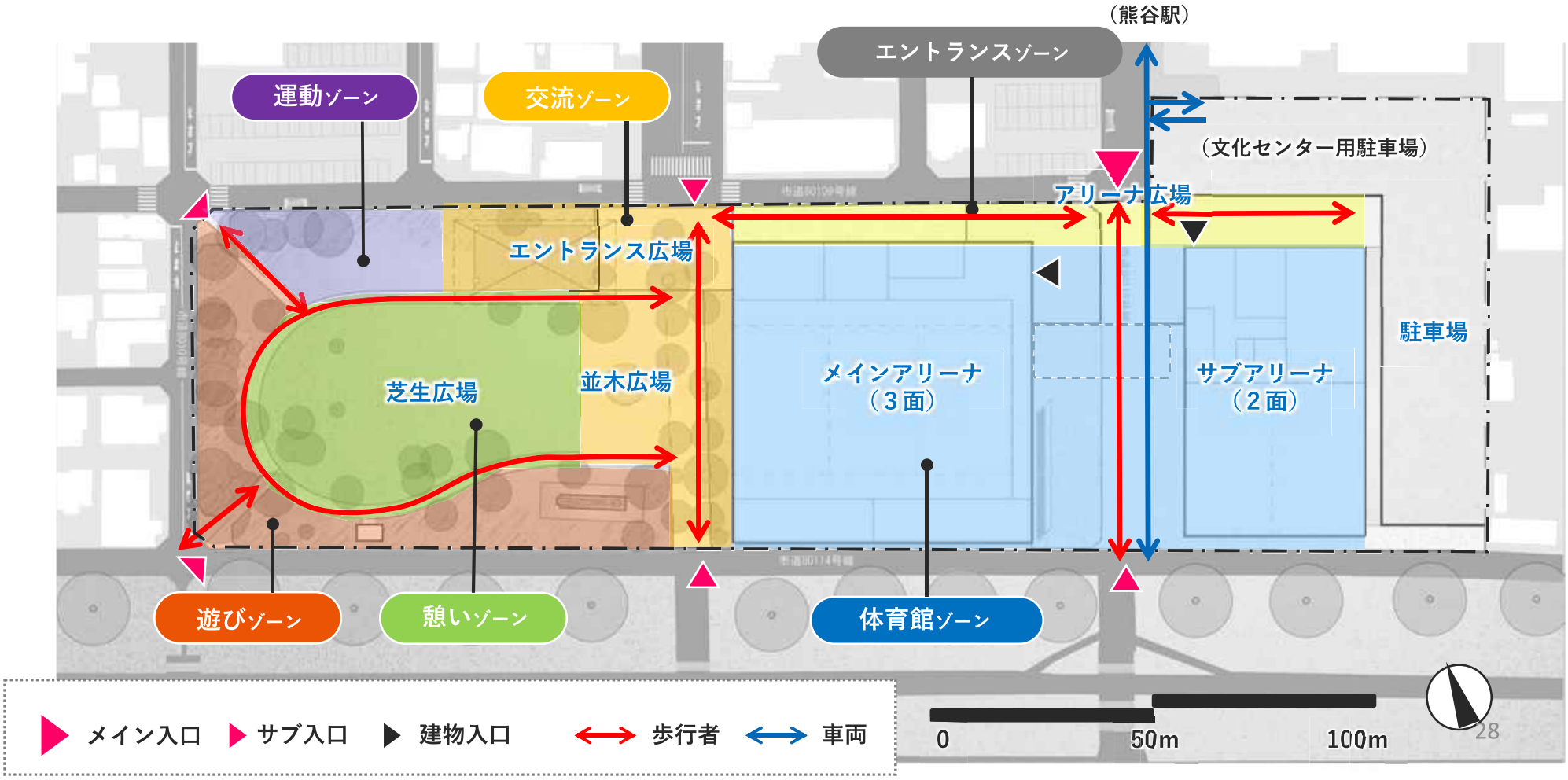
①案

【景観の視点｜駅側からのエントランス性・解放感】
- 駅側に体育館機能を集約し、南エリアにおける体育館を主とした構成
- 公園側の建築ボリュームが大きくなる

【安全・動線の視点｜歩車分離・利用動線】
- 駐車場が現体育館側に集約され、歩車分離に配慮した構成
- 日常利用を主とするサブアリーナと公園が道路により分断される。

【利用・運営の視点①｜イベント時・大会利用対応】
- 観客席数・アリーナ面積を一定程度確保し、大会利用に対応
- イベント時の滞留・待機空間を確保しやすい構成

【利用・運営の視点②｜日常利用・多様な活動の受け止め】
- 公園と体育館が並木を境に分離し、それぞれの利用の区分が明確
- 競技利用中心のため、活動の重なりは限定的



①案



固定観覧席
メインアリーナ
吹抜け
固定観覧席
渡廊下
トイレ・
更衣室
武道場
ロビー
サブアリーナ
吹抜け
（文化センター用駐車場）
エントランス広場
アリーナ広場
健康器具
屋根付き広場
遊具
倉庫
更衣室
事務室
エントランスホール
エントランス
事務室
トレーニング
トイレ
器具
駐車場
並木広場
芝生広場
水景施設
メインアリーナ
3面
サブアリーナ
2面
遊具
トイレ
SL展示
機械室・器具庫
運営諸室
0
50m
100m

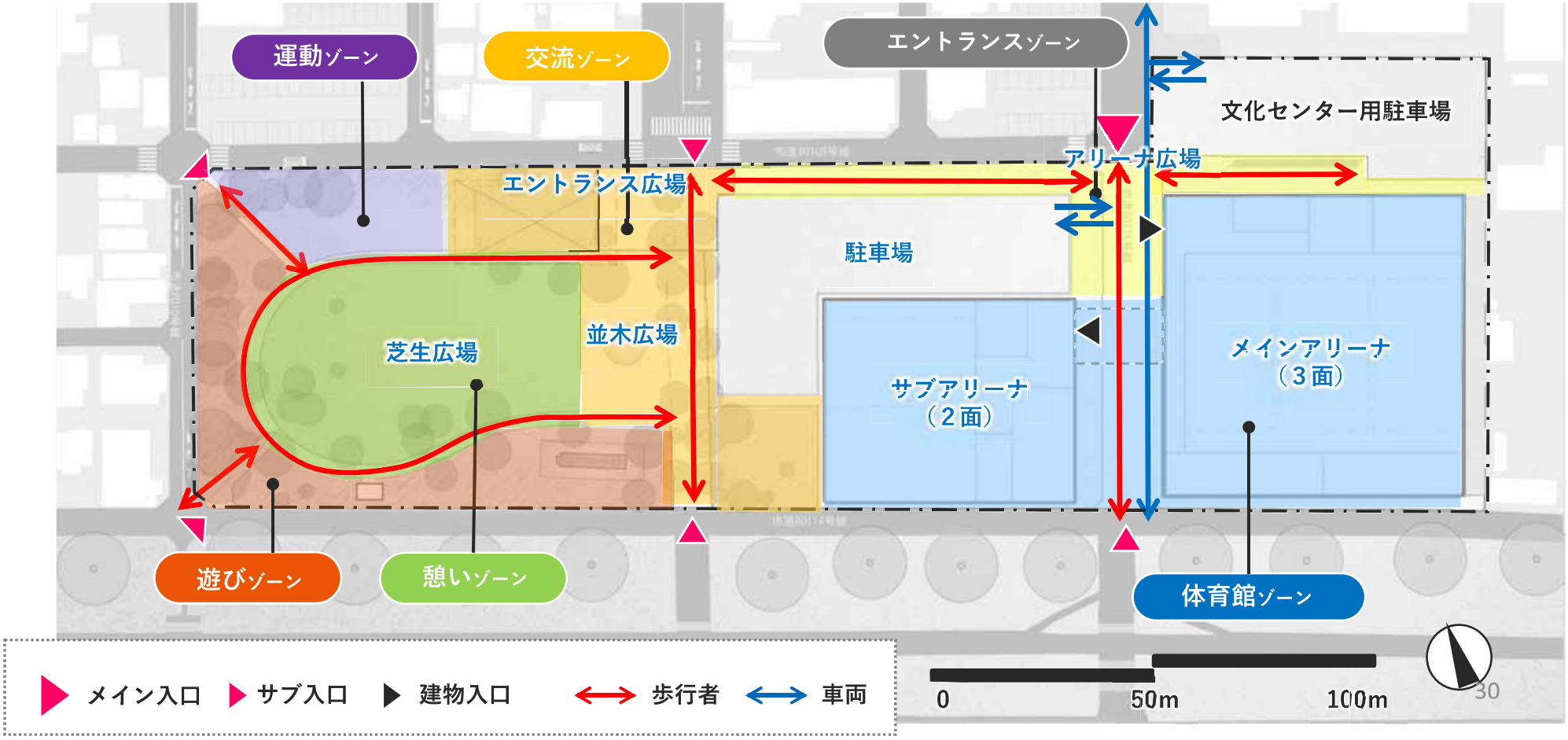
②案

【景観の視点｜駅側からのエントランス性・解放感】
- 駅側から芝生広場への見通しを確保した構成
- メインアリーナを現体育館側に配置し、近隣住宅への圧迫感を軽減

【安全・動線の視点｜歩車分離・利用動線】
- 駐車場で空間が分断されるものの、日常利用を主とするサブアリーナと公園が道路を挟まず直接アプローチできる構成
- 駅側の交差点は、その先に駐車場があるため、車や人が一時的に集中しやすい

【利用・運営の視点①｜イベント時・大会利用対応】
- 観客席数・アリーナ面積を一定程度確保し、大会利用に対応
- メイン入口付近の屋外のたまり空間がやや手狭

【利用・運営の視点②｜日常利用・多様な活動の受け止め】
- 公園側にサブを配置し、公園空間をより広く確保し、多目的利用を受け止め
- 公園とサブアリーナ利用の活動の重なりが期待できる



②案



固定観覧席
機械室
更衣室
ロビー
渡廊下
メインアリーナ
吹抜け
サブアリーナ
吹抜け
武道場
固定観覧席
文化センター用駐車場
エントランス広場
アリーナ広場
健康器具
屋根付き広場
遊具
駐車場
並木広場
芝生広場
水景施設
事務室
エントランスホール
更衣室
倉庫
メインアリーナ
3面
サブアリーナ
2面
キッズ
トレーニング
器具庫
運営諸室
器具庫・機械室
遊具
トイレ
SL展示
0
50m
100m

（6）再整備に向けた論点の比較

論点に対する考え方

	論点	市の基本的な考え	①案	②案
効率的・効果的な整備としたい	熊谷駅南エリアの新たな「顔」をつくる	川や駅との空間的・景観的な連続性に加え、人の動線や活動のつながりを創出し、南エリアの新たなシンボルとなる空間形成を目指す	並木道を維持することで市役所通りからの景観の連続性を維持、南エリアにおける体育館を主とした景観を創出	並木道を維持することで市役所通りからの景観の連続性を維持、駅からアプローチした際に公園まで見通せる連続的な景観を創出
	屋外/屋内一体整備の良さを発揮する	公園と体育館が連続した利用環境を形成し、日常的に人が滞在・回遊できる空間を目指す	公園側にメインアリーナ配置となり利用の連携が難しい	サブと公園が隣接しており連携が可能 駐車場により公園と体育館空間が分断されやすい
	「する・ささえるスポーツ」の利用環境を高める	日常利用から大会利用まで幅広いスポーツ利用できる施設を目指す	メイン3面＋サブ2面で屋内機能充実	メイン3面＋サブ2面で屋内機能充実
	「みるスポーツ」で南口に新たな価値を提供する	観戦機能を備えた施設により、交流・にぎわい創出を図る	観戦機能を確保しつつ、運営効率にも配慮	観戦機能を確保しつつ、運営効率にも配慮
	まちの防災性向上に役立てる	物資の備蓄機能を備え、避難時利用を考慮する	公園のオープンスペースを一定確保し、避難動線や屋外待機場所として活用可能	屋外駐車場が公園側にあり、物資拠点、待機場所として活用しやすい
コスト（将来の負担）を減らしたい	再整備は必要か？	老朽化対応に加え、市民ニーズやスポーツ環境向上のため再整備が必要		
	新体育館の適正な規模は？	市民利用と大会利用のバランスを踏まえた適正規模を検討する	メイン3面＋サブ2面で充実した規模	メイン3面＋サブ2面で充実した規模
	将来にわたってかかるコストは？	整備費だけでなく維持管理費も含めた検討が必要	P27参照	P27参照
良好な住環境を守りたい	現公園の緑や広場の良さが失われないか？	現公園の緑や広場機能をできる限り維持する	住宅に近接した部分の建築ボリュームが比較的大きい 屋上緑化により緑地を確保	公園東側は建物と駐車場が占める 屋上緑化により緑地を確保
	再整備により環境が悪化しないか？	圧迫感や騒音、周辺環境への影響低減に配慮する	交通渋滞、騒音に対する懸念はない、建物規模が大きく、住宅への圧迫感に対する配慮が必要	交通渋滞、騒音に対する懸念はない

（６）再整備に向けた論点の比較

論点に対する考え方

	論点	視点	①案	②案
効率的・効果的な整備としたい	熊谷駅南エリアの新たな「顔」をつくる	駅からの視点	 体育館の存在感を強調	 芝生広場への見通しを確保
		市役所通りからの視点	 既存の並木道を活かしつつ、体育館の存在感が感じられる景観	 並木の両側の開放性を確保し、並木道を強調した景観
良好な住環境を守りたい	現公園の緑や広場の良さが失われないか？ 再整備により環境が悪化しないか？	鳥瞰図	 並木より東側が全面建物となり、並木より東側の公園のオープンスペースは減少、屋上に緑地を確保 体育館（メインアリーナ）により住宅への圧迫感が生じる	 並木より東側が建物と駐車場となり、並木より東側の公園のオープンスペース減少、屋上に緑地を確保 住宅の前面道路が駐車場への車両動線となる

（7）参考事例：公園と建物との連携について

大牟田市総合体育館（おおむたアリーナ）

熊谷での参考ポイント：施設の周りに公園の延長として使える「縁側」のような場所ができるとしたら？

テーマ：公園の景観を活かし、緑とアクティビティが溶け込む

特徴：大きなテラスを配置し、公園を眺めながら休憩できる。ガラス張りの外観で、外の散歩道から中のスポーツ活動が見える「開かれた」アリーナ。





所在地	大牟田市宝坂町二丁目92番地
開館	令和6（2024）年
構造	鉄骨造 2階建て
延床面積	約10,000㎡

基本コンセプト

「スポーツや運動を通じてひとを健康に、まちを元気にする緑に囲まれた総合体育館」

主な諸室・設備

アリーナ（約1713m2）、多目的ホール（約1284m2）、会議室1～9、相談室、柔道場、剣道場1～2、、キッズルーム、トレーニング室、談話コーナー、卓球室、アリーナ観客席1524名（仮設席最大1500名）、器具庫、多目的ホール観客席226名、防災備蓄庫

緑と語らいの広場　えにあす

熊谷での参考ポイント：施設に、どんな公共・民間機能を混ぜれば、多世代が毎日来るようになる？

テーマ：異なる機能が「まざる」ことで賑わいを生む複合施設

特徴：民間フィットネス、図書館、子育て支援が一つに。運動のついでに本を読んだり、子どもを遊ばせたりすることが可能。隣接する公園と連携したイベントも盛ん。



所在地	恵庭市緑町2丁目1番1号
開館	平成30（2018）年
構造	鉄骨造地上2階建
延床面積	**約3,800m2**

特徴・コンセプト：

「市民のサードプレイスを創る（民間×公共の融合）」

主な機能（施設）

市民活動センター、保険センター、夜間・休日急病診療所、図書館　恵庭分館、子育て支援センター、学童クラブ、こどもひろば、ラジオ局、スポーツクラブ、コンビニエンスストア

19

茨木市文化・子育て複合施設 おにクル

熊谷での参考ポイント：施設の屋根やテラスを、公園の一部として遊べる場所にできないか？

テーマ：建物全体が「立体的な公園」。空間の境界をなくす

特徴：建物全体にCASCADE（滝）のようなテラスやベランダがあり、風や緑を感じる「外（公園）のような中」を実現。図書館、ホール、子育て支援など、異なる機能がテラスや外階段を通じて立体的に繋がっている



所在地	大阪府茨木市駅前三丁目9番45号
開館	令和4（2023）年
構造	鉄骨コンクリート造（一部鉄骨造）
延床面積	19,715.22平米

主な機能（施設）

市民活動センター、コワーキングスペース、市民交流スペース、きたしんプラネタリウム、屋上広場、交流ホワイエ、会議室、和室、図書館、ゴウダホール、こども支援センター、多目的室、カフェなど

18

荒川公園周辺再整備基本計画策定協議会　委員名簿

No.	所属団体	氏　名
1	千葉大学　グランドフェロー 社会構想大学院大学　社会構想研究科　教授	池邊このみ
2	日本女子体育大学大学院 スポーツ科学研究所スポーツ科学専攻　教授	上林　　功
3	荒川自治会連合会	原　　邦夫
4	曙・万平自治会連合会	橋本　昌克
5	筑波自治会連合会	中村　　稔
6	熊谷商工会議所	佐久間文彦
7	熊谷青年会議所	長澤　元樹
8	株式会社まちづくり熊谷	松岡　八起
9	熊谷市観光協会	江森　勝行
10	熊谷市スポーツ協会	赤沼　　昇
11	熊谷市レクリエーション協会	磯山加代子
12	熊谷市中学校体育連盟	山田　健司
13	熊谷市高等学校体育連盟	上田　毅一
14	熊谷市社会福祉協議会	原山　俊市
15	NPO法人子育てネットくまがや	大﨑　幸恵
16	熊谷市子ども会育成連絡協議会	林　　昌己
17	埼玉県防災士会	富田　義三

※委員は各団体からの推薦

熊谷市荒川公園周辺再整備基本計画策定協議会設置要綱

（令和７年１２月１８日市長決裁）

（名称）

第１条　この会は、荒川公園周辺再整備基本計画策定協議会（以下「協議会」という。）と称する。

（設置目的）

第２条　熊谷市立市民体育館及び隣接する荒川公園周辺を再整備するに当たり、幅広い見地から意見を求め、実効性のある計画を策定することを目的とする。

（構成及び組織）

第３条　協議会は、会長、副会長及び委員をもって２０人以内で組織する。

２　会長は、学識経験者をもって充てる。

３　副会長は、委員のうちから会長が指名する。

４　委員は次に掲げる者のうちから市長が委嘱又は任命する。

⑴　学識経験者

⑵　地区を代表する者

⑶　関係団体を代表する者

⑷　その他、市長が必要と認める者

５　関係する市職員等をオブザーバーとすることができる。

（会長等の職務）

第４条　会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

２　副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

（任期等）

第５条　委員の任期は、委嘱又は任命の日から令和９年３月３１日までとする。

２　会長は、委員等に特別の事情が生じたときは、その職を解き、必要に応じて委員等を補充することができる。

３　委員が欠けた場合における補充委員の任期は前任者の残任期間とする。

（会議）

第６条　協議会の会議は、必要に応じて会長が招集する。

２　協議会の議長は、会長がこれにあたる。

３　会長は、必要があると認めるときは、協議会に委員以外の関係者の出席を求めてその意見及び説明を聴き、又は資料の提出を求めることができる。

（庶務）

第７条　協議会の庶務は、総合政策部スポーツタウン推進課において処理する。

（委任）

第８条　この会則に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が別に定める。

附　則

（施行期日）

この要綱は、令和７年１２月１８日から施行する。